

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1475500813
法人名	株式会社愛誠会
事業所名	はなまるホーム宮前
訪問調査日	令和3年12月9日
評価確定日	令和4年1月20日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475500813	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	(株)愛誠会			
事業所名	はなまるホーム宮前			
所在地	( 216-0002 ) 神奈川県川崎市宮前区東有馬3-8-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に生き生きと施設でお過ごしいただけるようなサービスを提供している点です。具体的には『愛をもって接する』という施設理念を体現すべく、職員が入居者様へのコミュニケーションをしっかりととれていること。また、グループホームでは簡単ではない『毎日散歩する機会をご本人のその時その時の意志を尊重しながら提供していること』などに力をいれております。水分摂取を始めとした食事の栄養管理も管理栄養士の指導の下行っており、健やかに明るく生活して頂ける場になっていると自負しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月9日	評価機関 評価決定日	令和4年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社愛誠会の運営です。同法人は「医療と介護の融合・連携」を掲げた、調剤薬局や医療モール開発事業を全国展開しているアイセイ薬局グループの介護事業を担っています。(株)愛誠会は、デイサービス・介護付き有料老人ホームやグループホーム、都市型軽費老人ホーム・小規模多機能などの事業所を全国に展開しています。グループホームは2022年3月に開設する「はなまるホーム座間」を含めて27、神奈川県内では3ヶ所の事業所を運営しています。「はなまるホーム宮前」は東急田園都市線「鷺沼駅」からバスに乗り「下有馬」で下車、徒歩2分程の静かな住宅街に位置しています。  
 ●ケアについては、「愛を持って接する」「親にしてもらいたい介護」を理念に掲げ、毎朝の申し送り時に唱和しています。職員が笑顔で働き、利用者が生き生きと毎日を過ごせる、家族のような温かい環境作りを目指しています。昨年度業務スケジュールを見直し、新しく作成し直したことで、職員の「2人体制」「3人体制」のタイムスケジュールが明確になり、グループホームでは簡単ではない「毎日の散歩」の実践につながっています。また利用者の意思も尊重しながら、下肢運動や工夫を凝らした水分摂取を心がけ、入院や転倒骨折の少ない毎日が過ごせるよう支援しています。  
 ●職員の資質向上への取り組みでは、自立支援の専門家と定期的にやり取りをし、業務内容を改善するための「課題シート」を毎月提出してもらうことで、職員が自ら考えることを習慣にし、モチベーションアップに繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	はなまるホーム宮前
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛を持って接するという理念を掲げ、職員はしっかりと体現してくれていると感じる。包括センターなどとコロナ下でも連携をこまめに行っているようにしている。	「愛を持って接する」「親にしてもらいたい介護」という理念を、企業理念とともに事務所に掲示し、ケアプランの短期目標と共に毎朝の引継ぎ時に唱和して周知を図っています。職員は、利用者に笑顔で接し、常に寄り添うことを心がけ、支援にあたっています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ状況下ではあったが、地域のボランティアの方とオンラインで繋ぎ交流を継続させていました。	町内会に加入しています。コロナ状況下ですが、傾聴ボランティアの方とオンラインでつなぎ、利用者と一緒に話していただいています。例年は、夏祭りの設営準備や片付けなどを職員が手伝い、利用者もお連れして参加していました。管理者は地域に開かれた事業所を目指し、今後もイベントに参加していく予定です。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターに対して、コロナの状況下でもオンラインで家族やボランティアさんと交流していることをお伝えし、グループホームの勉強がしたいという方に向けてオンラインで講義できることを伝えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ状況下なので書面開催で地域包括センターと交流してきた。	通常時には、町内会長・民生委員・包括支援センター職員の参加で、2ヶ月に1度開催しています。事業所の運営報告をし、町内会の情報をいただいています。コロナ状況下なので、書面で開催し、参加の方に手渡しをしています。地域包括支援センターとは認知症の理解を深めるための交流を図っています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の方も沢山いらっしゃることもあり、担当者と密に連絡をとって来ました。	生活保護の方が約半分と多く、必要に応じて区役所の担当の方と、相談等で密に連絡を取り合っています。地域包括支援センターとは、認知症サポーター講習や、法人の薬剤師の方に薬の講義をしてもらえないかなど、色々話し合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束委員会と半年に1回の身体拘束に関わる研修を行い、身体拘束に対する注意喚起をする仕組みを作っている。	3ヶ月に1度の身体拘束に関する委員会と、半年に1回の身体拘束に関わる研修を行い、どのような行為が拘束にあたるかを学び、日常的に話し合いながら拘束のないケアに取り組んでいます。転倒の多い利用者の家族とも様々な提案をし、話し合いを重ねて、拘束をしない仕組みを考慮しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こちらも定期的に研修を行い、虐待の内容に周知徹底してきた。	身体拘束とともに、定期的に研修を行い、虐待の内容について周知徹底してきました。声掛けの仕方についても、日頃から注意喚起し、利用者が不穏の状態にあった時は、寄り添うことを心がけています。職員が楽しく仕事をすれば、虐待の予防につながるとの思いで、職員が疲れないよう心掛けています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方と連絡を取り合う機会があるので、どのような存在なのかを理解してもらう機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に書面にて郵送する際に、質問を頂けるような文章を入れている。ご家族様とのやり取りは頻繁に行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ状況下であった為、個別でやりとりし、要望を伺ってきました。	入居契約時に、苦情相談窓口とその対応について説明しています。コロナ状況下の為、個別に電話等でやり取りをしていましたが、面会できない分、家族との連絡は増えました。月1回、請求書とともに利用者の近況を書いたお便りを送付し、意見も書いていただいています。面会は8月から再開しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを作成し、いつでも提出できるようにしている。 また個別で面談を行い、話をする時間を作ってきた。	毎月定例で行われる全体会議と、ユニット会議、カンファレンスには管理者も参加し、職員とコミュニケーションを取りながら、業務の改善に取り組んでいます。職員の意欲を認め、職員の得意な事を業務の中に取り入れています。また個別に面談を行い、話を聞く時間を作っています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自立支援に関する勤務スケジュールを導入し、入居者様が生き生きと生活することができるよう努力している。 前向きに勤務する風土を大切に、スタッフが入居者様の笑顔を支えることをやりがいと感じるように意識させてきた。	自立支援に関する業務スケジュールを導入し、タイムスケジュールを見直すことで、職員が休憩時間もしっかりとれるようにしています。有休もしっかり取り、充足できるよう配慮しています。職員が前向きに勤務することで、利用者も笑顔で過ごせることを意識しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自立支援の専門家と定期的により取りをして刺激を得ている。また、業務内容を改善する為の提出物を定期的に提出してもらうことでスタッフ自らが自分で考えるような習慣作りにも励んできた。	介護基礎学を学び、自立支援の専門家と定期的により取りをしています。業務内容を改善するための課題シートを毎月提出してもらい、管理者が評価をすることで、やりがいにつながり、職員自らが自分で考える習慣作りに取り組んできました。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括センターの担当者様と、弊社の薬剤師も参加している形でのお話合いの機会を作りました。地域包括センターの方が薬局に認知症研修をする。弊社薬剤師が、包括センターの方々に向けて薬事研修を行うなどのことが今後あり得ます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様のご要望をしっかりと伺いした上でケアプランをたて、それに基づいたケアを展開しております。 サービス開始時は入居者様も心配事が多く、ご家族様もケアに関してお悩みのことも多いので慎重にヒアリングしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴はとても重要と感じております。特に入所してすぐの段階ではご家族様はケアに関して、またケアの負担が様々なことへの悪影響を及ぼしていることに関して悩まれているケースが多いのが現状です。それを緩和することがとても重要なことと考えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からのヒアリングをしてゆくだけでなく、入所してまだ情報が少ない中で、スタッフ間でいかに情報をあげ、共有できるかがとても重要と思います。様々な角度から、また様々な可能性を考慮しながら慎重にケアの方向性を考えてゆきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリに関してはかなり積極的に取り組んでいる施設になります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ状況下でのコミュニケーションは簡単ではありませんが、オンライン通話を感染状況が酷い時は使用し、入居者様とのやりとりをしたり、施設スタッフと話し合いをしたり、コミュニケーションが希薄化しないように工夫してきました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の親族のお墓参りに一緒にいくことができました。コロナ下でもオンラインで親族だけでなく、仲の良かった友人の方にも積極的にやりとりして頂けるような工夫をしました。	コロナ状況下でも、オンラインで親族だけではなく友人等にもやりとりをしてもらえよう、工夫しています。家族との面会は8月に再開しました。地域のアリーナ（図書室等）を週1回利用している方もいます。お孫さん等の写真付きの葉書を持って来られる家族もあり、利用者に喜ばれています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性の良さなどを加味し、馴染みの関係ができるようなアプローチや席配置など工夫しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約のあるなしに関わらず、地域の方との交流を重ねることが大切なことと感じております。契約後も施設にいらっしゃるご家族様もいます。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的なモニタリングやヒアリングも行っておりますが、散歩に行く機会が多い施設なので、そのようなスタッフと入居者様でゆっくりお話しできる機会を活かして本人から要望を伺うよう意識しております。	定期的なモニタリングやカンファレンスで、利用者の思いや意向を把握しています。利用者職員との1対1の時間を大切にしており、毎日の散歩や入浴の時のゆっくり話を出来る機会を生かして、回想法につなげています。意思疎通の困難な方には、表情や仕草等から推測し、意向を酌み取っています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から可能な限り情報を引き出して、過去の生活歴に沿った生活リハビリに対して前向きな気持ちで取り組んで頂けるようなスタッフのアプローチを大切にしています。 また、家具を実家から持参頂いたり、アルバムをスタッフと一緒に読んだりなど工夫しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態に合わせて1日のスケジュールを組んでいる方もいらっしゃいます。一日の活動量を意識し有意義に過ごして頂く為の工夫をスタッフで相談し知恵を出し合いながら取り組んでおります。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や地域の方々などの意見を参考にさせて頂いた上でスタッフ間で話し合い、モニタリングを行っております。	ユニット会議と同時にケア会議も行い、法人の薬剤師が参加しています。薬剤師の参加で、薬に対する指導を受けたり、配薬のミスを防ぐことにも繋がっています。職員のアンケートを参考にモニタリングを行い、少しの変化でも課題を見つけ、見直しにつなげています。概ね3ヶ月毎に見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに業務日誌をつけており、その中で日々の変化や気付いたことなどを共有し、スタッフ間での申し送りをするようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフだけではなく、医療機関や薬剤師、ご家族様やボランティアの方など、ご協力頂ける範囲でケアに活かせることは取り入れるように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは積極的に以前から参加して頂いておりましたが、コロナ状況下でもオンラインでの傾聴ボランティアは積極的に活用しました。また、地域包括センターに紹介して頂いている地域の公園での体操にも参加しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と医療機関との小まめなやり取りがコミュニケーショントラブルを防ぎ、信頼関係の構築に良い影響を与えると考えております。その点を意識して運営しております。	本人や家族の希望を大切にし、提携医以外の受診・通院も支援しています。事業所の提携医「ひかりクリニック東京」には内科・皮膚科・精神科があり、月2回の訪問診療があります。訪問歯科は週1回の診療があります。看護師の勤務も週1回あり、必要な情報を共有し、適切な看護の提供に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務する為、必要な情報は看護師に対して共有し、看護師が看護の提供がスムーズにゆくように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状をよく医療機関と共有した上で、早期退院ができそうかどうかをよく検討して頂くようにしています。ADLの維持や入院される入居者様の心情を考えると可能な限り早期の退院になる方がよいのではと考えております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況を良く把握し、終末期にさしかかってきたような状態の時に、可能な限り早期にICを行うようにしており、ご家族様と医療機関としっかりと方針が共有できるように努めております。	入居時に「看取りケア」について十分説明し、終末期の状態になったときに「同意書」を交わしています。医療機関・家族との話し合いの場では、家族の意向を大切に汲み取り、医療機関と方針を共有し、その方にとって最善の方法を見出しながら支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故防止委員会をおこなっており事故の予防について深く考えた上で、万が一事故や急変が起きた時の対応に関しても議論するようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年間2回行っており、消防署にもご協力頂きながら実施しております。その際に避難経路についても確認共有しております。	防災訓練は年2回、昼夜の火災や地震を想定して実施しています。年1回は消防署にも協力いただき、防災器具の説明等を受けています。利用者もできる方は参加しています。備蓄は、水・缶詰・レトルト食品・冷凍食品・発電機等を確保し、災害対策に配慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様をお客様として、人生の先輩として、尊敬し合いを持って接するという施設ポリシーを掲げており、スタッフにはそれを体現してもらっていると思います。	利用者に対する接遇・人格の尊重・肖像権や個人情報の遵守等のプライバシーの確保に関しては、研修でも学び身に着けています。「親にしてみたい介護」をポリシーに掲げており、人格の尊重に配慮した上で、慣れ親しんだ関係性も考え、バランスを取って接しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、ご自身の思いを表現する機会を作る必要があり、入浴介助の際や散歩の時間に、何気ない日常会話をしながらそのような思いもくみ取るようスタッフには取り組んでもらっています。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務をしっかりこなすことも安定したサービスの提供には大切なことですが、入居者様のニーズはその時々で異なります。そのことを常に念頭に置きながらスタッフは業務にとりこんでおります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や入居者様の性格やご要望に合わせて、支援させて頂いております。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に関する生活リハビリには特に力をいれており、ほぼ毎日、入居者様に取り組んで頂いております。	メニューは職員が考え、法人の栄養士がチェックしています。食材はネットスーパーを利用していますが、寿司を買ってきたり、ドライブスルーでマックシェイクを飲んだり、楽しみも取り入れています。食器洗い・食器拭き・下拵え・盛り付け等、出来ることに取り組んでいただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が定期的に日々提供している食事の栄養状況を分析し、適切な栄養バランスがとれているのかを確認してもらっています。一日の水分摂取量は施設平均で1830CCになります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔環境が良くないと様々な部分で悪影響がでてまいりますので、しっかりとケアできるようスタッフが介入する必要がある場合は介助させて頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の水分提供を心がけ、散歩やラジオ体操など運動を取り入れることで、排泄リズムを安定させ、骨盤底筋運動を実施し、尿漏れを防ぐよう取り組んでおります。	水分摂取量の記録と排泄チェック表の把握で、個々に合った声かけ・見守りで排泄の自立支援に取り組んでいます。利用者に飲み物を選んでいただくなどの工夫を凝らした水分提供と、階段の上り下りや必要に応じての立位などを行うことで、排泄リズムの安定を心がけ、便秘の予防にも役立っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐよう、水分摂取や運動、栄養バランスを意識して食事や飲み物を提供したり、運動の機会を増やしたりと、入居者様に前向きに取り組んで頂く形で取り組んで参りました。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は定期的に入れるように設定しておりますが、ご要望に応じて柔軟に入浴日の調整ができるような体制をとっております。	週2日は入浴できるよう支援していますが、家族や本人の要望があれば、柔軟な対応を心掛けています。入浴中は利用者との会話も大切にしています。羞恥心のある方には同性介助で対応するなどの配慮をしています。季節のゆず湯・菖蒲湯なども取り入れ、楽しく入浴していただけるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には入居者様の活動はご本人様の御意志で決めて頂いているような状況ですが、大きく生活リズムを損なっているような状況の場合は、スタッフが介入し、健やかに生活をして頂けるよう支援させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回の定期往診がありますが、その際にご本人様の現状を薬剤師や医師に共有し、必要のないお薬に関しては減量できるよう相談するように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のご要望や生活歴を加味した内容で日々の生活スケジュールを構築しております。そのスケジュールをその時々のご本人様の気持ちに合わせて柔軟に変更できるように対応しております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の要望を加味した上で、基本的には毎日散歩の機会が提供できるように業務スケジュールを一昨年採用しております。また、定期的にドライブなど外出の機会も提供しております。	健康チェックと、本人の要望を加味したうえで、基本的には毎日散歩の時間をとっています。その際は、別のフロアに挨拶をしてから行くことで、ユニット間の交流にも繋がっています。ウッドデッキでお茶をすることもあります。定期的にドライブも行い、みなとみらいや鎌倉などの遠出も提供しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご要望に応じて、財布やお金を所持して頂けるような体制をとっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、電話でのやり取りは行って頂くことはよくあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間だね、温かい雰囲気ですねとご家族様によく仰って頂いております。	リビングの窓は大きく、自然の採光が溢れ、またLEDライトに変えたことで、より共用空間が明るくなりました。加湿器や空気清浄機で環境にも配慮しています。リビングからつながるウッドデッキで、お茶をすることもあります。テレビではYouTubeを利用して、利用者の好きな歌を流したり、ラジオ体操や箱根駅伝・花火などの映像を流して楽しんでいただけるようにしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで入居者様同士お話ししたり、音楽を聴いたり、本を読んだり、様々な方がいらっしゃいます。また居室が一人一部屋あり、一人になりたい時はそちらも利用されます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご実家からお好みのものを持参して頂いたり、部屋のものに関しては、ご本人やご家族様と相談させて頂きながらお部屋のコーディネートをしています。	居室には、洗面台・クローゼット・エアコン・ベッド・カーテンが備えられています。家具や調度品は家族と相談の上、仏壇やタンス・机・こけしや人形等の使い慣れたものや好みのものを持参していただき、本人が居心地よく過ごせるよう支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が可能な限り自立して生活頂けるように安全面をよく考慮した上で、環境整備に努めております。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所 はなまるホーム宮前

作成日 令和3年12月9日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	はなまるホーム宮前
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛を持って接するという理念を掲げ、職員はしっかりと体現してくれていると感じる。 包括センターなどとコロナ下でも連携をこまめに行っているようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ状況下ではあったが、地域のボランティアの方とオンラインで繋ぎ交流を継続させていました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターに対して、コロナの状況下でもオンラインで家族やボランティアさんと交流していることをお伝えし、グループホームの勉強がしたいという方に向けてオンラインで講義できることを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ状況下なので書面開催で地域包括センターと交流してきた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の方も沢山いらっしゃることもあり、担当者との密に連絡をとって来ました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束委員会と半年に1回の身体拘束に関わる研修を行い、身体拘束に対する注意喚起をする仕組みを作っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こちらも定期的に研修を行い、虐待の内容に周知徹底してきた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方と連絡を取り合う機会があるので、どのような存在なのかを理解してもらう機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に書面にて郵送する際に、質問を頂けるような文章を入れている。ご家族様とのやり取りは頻繁に行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ状況下であった為、個別でやりとりし、要望を伺ってきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを作成し、いつでも提出できるようにしている。 また個別で面談を行い、話をする時間を作ってきた。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自立支援に関する勤務スケジュールを導入し、入居者様が生き生きと生活することができるよう努力している。 前向きに勤務する風土を大切に、スタッフが入居者様の笑顔を支えることをやりがいと感じるように意識させてきた。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自立支援の専門家と定期的にやり取りをして刺激を得ている。また、業務内容を改善する為の提出物を定期的に提出してもらうことでスタッフ自らが自分で考えるような習慣作りにも励んできた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括センターの担当者様と、弊社の薬剤師も参加している形でのお話合いの機会を作りました。地域包括センターの方が薬局に認知症研修をする。弊社薬剤師が、包括センターの方々に向けて薬事研修を行うなどのことが今後あり得ます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様のご要望をしっかりと伺いした上でケアプランをたて、それに基づいたケアを展開しております。 サービス開始時は入居者様も心配事が多く、ご家族様もケアに関してお悩みのことも多いので慎重にヒアリングしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴はとても重要と感じております。特に入所してすぐの段階ではご家族様はケアに関して、またケアの負担が様々なことへの悪影響を及ぼしていることに関して悩まれているケースが多いのが現状です。それを緩和することがとても重要なことと考えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からのヒアリングをしてゆくだけでなく、入所してまだ情報が少ない中で、スタッフ間でいかに情報をあげ、共有できるかがとても重要と思います。様々な角度から、また様々な可能性を考慮しながら慎重にケアの方向性を考えてゆきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリに関してはかなり積極的に取り組んでいる施設になります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ状況下でのコミュニケーションは簡単ではありませんが、オンライン通話を感染状況が酷い時は使用し、入居者様とのやりとりをしたり、施設スタッフと話し合いをしたり、コミュニケーションが希薄化しないように工夫してきました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の親族のお墓参りに一緒にいくことができました。コロナ下でもオンラインで親族だけでなく、仲の良かった友人の方にも積極的にやりとりして頂けるような工夫をしました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性の良さなどを加味し、馴染みの関係ができるようなアプローチや席配置など工夫しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約のあるなしに関わらず、地域の方との交流を重ねることが大切なことと感じております。契約後も施設にいらっしゃるご家族様もいます。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的なモニタリングやヒアリングも行っておりますが、散歩に行く機会が多い施設なので、そのようなスタッフと入居者様でゆっくりお話できる機会を活かして本人から要望を伺うよう意識しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から可能な限り情報を引き出して、過去の生活歴に沿った生活リハビリに対して前向きな気持ちで取り組んで頂けるようなスタッフのアプローチを大切にしています。 また、家具を実家から持参頂いたり、アルバムをスタッフと一緒に読んだりなど工夫しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状態に合わせて1日のスケジュールを組んでいる方もいらっしゃいます。一日の活動量を意識し有意義に過ごして頂く為の工夫をスタッフで相談し知恵を出し合いながら取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や地域の方々などの意見を参考にさせて頂いた上でスタッフ間で話し合い、モニタリングを行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに業務日誌をつけており、その中で日々の変化や気付いたことなどを共有し、スタッフ間での申し送りをするようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフだけではなく、医療機関や薬剤師、ご家族様やボランティアの方など、ご協力頂ける範囲でケアに活かせることは取り入れるように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは積極的に以前から参加して頂いておりましたが、コロナ状況下でもオンラインでの傾聴ボランティアは積極的に活用しました。また、地域包括センターに紹介して頂いている地域の公園での体操にも参加しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と医療機関との小まめなやり取りがコミュニケーショントラブルを防ぎ、信頼関係の構築に良い影響を与えると考えております。その点を意識して運営しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務する為、必要な情報は看護師に対して共有し、看護師が看護の提供がスムーズにゆくように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状をよく医療機関と共有した上で、早期退院ができそうかどうかをよく検討して頂くようにしています。ADLの維持や入院される入居者様の心情を考えると可能な限り早期の退院になる方がよいのではと考えております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況を良く把握し、終末期にさしかかってきたような状態の時に、可能な限り早期にICを行うようにしており、ご家族様と医療機関としっかりと方針が共有できるように努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故防止委員会をおこなっており事故の予防について深く考えた上で、万が一事故や急変が起きた時の対応に関しても議論するようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年間2回行っており、消防署にもご協力頂きながら実施しております。その際に避難経路についても確認共有しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様をお客様として、人生の先輩として、尊敬し合いを持って接するという施設ポリシーを掲げており、スタッフにはそれを体現してもらっていると思います。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、ご自身の思いを表現する機会を作る必要があり、入浴介助の際や散歩の時間に、何気ない日常会話をしながらそのような思いもくみ取るようスタッフには取り組んでもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務をしっかりこなすことも安定したサービスの提供には大切なことですが、入居者様のニーズはその時々で異なります。そのことを常に念頭に置きながらスタッフは業務にとりこんでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や入居者様の性格やご要望に合わせて、支援させて頂いております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に関する生活リハビリには特に力をいれており、ほぼ毎日、入居者様に取り組んで頂いております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が定期的に日々提供している食事の栄養状況を分析し、適切な栄養バランスがとれているのかを確認してもらっています。一日の水分摂取量は施設平均で1830CCになります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔環境が良くないと様々な部分で悪影響がでてまいりますので、しっかりとケアできるようスタッフが介入する必要がある場合は介助させて頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の水分提供を心がけ、散歩やラジオ体操など運動を取り入れることで、排泄リズムを安定させ、骨盤底筋運動を実施し、尿漏れを防ぐよう取り組んでおります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐよう、水分摂取や運動、栄養バランスを意識して食事や飲み物を提供したり、運動の機会を増やしたりと、入居者様に前向きに取り組んで頂く形で取り組んで参りました。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は定期的に入れるように設定しておりますが、ご要望に応じて柔軟に入浴日の調整ができるような体制をとっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には入居者様の活動はご本人様の御意志で決めて頂いているような状況ですが、大きく生活リズムを損なっているような状況の場合は、スタッフが介入し、健やかに生活をして頂けるよう支援させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回の定期往診がありますが、その際にご本人様の現状を薬剤師や医師に共有し、必要のないお薬に関しては減量できるよう相談するように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のご要望や生活歴を加味した内容で日々の生活スケジュールを構築しております。そのスケジュールをその時々のご本人様の気持ちに合わせて柔軟に変更できるように対応しております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の要望を加味した上で、基本的には毎日散歩の機会が提供できるように業務スケジュールを一昨年採用しております。また、定期的にドライブなど外出の機会も提供しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご要望に応じて、財布やお金を所持して頂けるような体制をとっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、電話でのやり取りは行って頂くことはよくあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間だね、温かい雰囲気ですねとご家族様によく仰って頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで入居者様同士お話ししたり、音楽を聴いたり、本を読んだり、様々な方がいらっしゃいます。また居室が一人一部屋あり、一人になりたい時はそちらも利用されます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご実家からお好みのものを持参して頂いたり、部屋のものに関しては、ご本人やご家族様と相談させて頂きながらお部屋のコーディネートをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が可能な限り自立して生活頂けるように安全面をよく考慮した上で、環境整備に努めております。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所 はなまるホーム宮前

作成日 令和3年12月9日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。